

西江雅之のみた 遠景をたずねて

2015年度、南山大学人類学博物館に貴重なコレクションが寄贈されました。それは著名な言語学者・文化人類学者であった故・西江雅之氏が、世界各地で蒐集したコレクションで、そこには、アフリカ・マサイ族の槍、パプアニューギニアの精霊像、ウミガメやトカゲの剥製等々が含まれています。いわば「西江雅之ワールド」といえる彼の独特な世界観が表れているといえるでしょう。

本企画展は、東アフリカをはじめとして様々な地域を旅してきた西江雅之氏のコレクションを、モノと写真で紹介します。“旅人”西江雅之氏は、どのような世界、彼がいうところの遠景をみてきたのでしょうか。彼のコレクションを通じて、来館者の皆様にも遠景へのまなざしを感じていただければ幸いです。

西江雅之 (1937 ~ 2015)

1937年、東京生まれ。幼い頃から雀や猫などの動物になることに憧れる。10代で人間の言語に興味をもち、20代の頃にアフリカへ渡り、独学でスワヒリ語辞典をつくる。早稲田大学文学部大学院芸術学修士課程修了後、フルブライト奨学生としてカリフォルニア大学大学院で学ぶ。その後は東京外国語大学、早稲田大学、東京芸術大学などで教鞭をとった。

世界各地で土地の人々との交流を重ね、言語と文化の研究に従事。飾り気のないその人柄から“裸足の学者”と呼ばれた。現代芸術関係での活動も多く、また、エッセイストとしても知られており、高等学校教科書にも作品が採用されている。

西江雅之コレクション

西江氏は、世界中を旅するなかで民族資料から剥製まで様々なモノを集めました。「雑多」で「個性的」で「魅力的」なコレクションは、彼の眼にかなったもの、好きだったもの、現地の生活を知る上で必要なものなど、いろいろな理由から集められたものでしょう。このようなコレクションを眺めていると、集めた人物の姿が思い浮かぶようです。

主な著作

- 『マチョ・イネのアフリカ日記』
- 『異郷から① 花のある遠景』
- 『異郷から③ 旅人からの便り』
- 『異郷から② 異郷の景色』
- 『ヒトかサルかと問われても— “歩く文化人類学者” 半生記』
- 『西江雅之自選紀行集』
- 『異郷日記』
- 『写真集 花のある遠景 flowers in Perspective』